國　新　聞（夕刊）　新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円（税込み 4,037円）　夕刊1部売り（税込み）50円　第3種郵便物認可

高齢者支援輪広がる

買い物送迎、カフェ運営

金沢市社福協　町会と協力、団体設立

金沢市社会福祉協議会が、町会などと協力して高齢者の生活を見守り、支援する団体の設立を各地区で進めている。「話す相手がいない」「足腰が悪く外出できない」といった悩みに応じ、交流カフェ運営や買い物送迎に取り組む内容で、今年度内に計10地区で活動開始を見込む。3日には千坂地区で「おたすけ隊」が発足し、高齢化率が高まる中、地域ぐるみで支え合う体制を整える。

「おたすけ隊」の発足に向けて話し合うメンバー＝2日午前11時、金沢市千坂公民館

千坂で「おたすけ隊」あす発足

金沢市社会福祉協議会は2013年度から、地域住民が高齢者に対し、できる範囲の生活支援を行う「地域安心生活支え合い事業」を始めた。新竪、米丸の2地区をモデルケースに3年間、住民主体の支援体制づくりの手順や方法を探ってきた。

新竪では「新竪そくさいサポーターの会」を設立し、寺でのコミュニティーカフェの開催や買い物送迎などに取り組んでいる。米丸では民生委員やボランティアで「あんやと会」を結成し、高齢者宅を訪問して見守り活動を行っている。

同協議会によると、金沢市内の高齢化率は昨年4月1日現在で25・2％となり、10年前の18・8％より上昇している。団塊の世代が75歳となる25年が高齢化のピークとされており、民生委員の負担が増える中、お年寄りを支えるまちづくり体制の整備が課題となっている。

こうしたことを背景に、今年度からは両地区に加え、十一屋、中村、浅川、千坂、長田、諸江、伏見台、西南部の8地区を新たに実施地区に指定した。このうち十一屋地区では、地区内で高齢化率の高い4町会で住民ボランティアを募り、1月に団体を発足させた。伏見台地区の高尾新町会では、見守りを希望する高齢者の自宅を示す地図を作成し、町会の班長や近隣住民らに配布して見守りの体制を強化している。

千坂地区でも高齢者の生活を支援する「おたすけ隊」を設立し、千坂公民館で3日、発会式（北國新聞社後援）を行う。民生委員やボランティアの住民約40人が隊員となり、高齢者の要望に応じて草むしりや雪かき、家具の移動などを手伝う。隊長を務める中山良一荒屋町住宅団地町会長（69）は「年をとると、日常の生活の中で困ることがたくさん出てくる。地域全体で解決していきたい」と話した。

北國新聞
2/2 夕刊～